



▲商品の説明を受ける甲斐高士町長と関係者

九州の中心に新たな生産拠点が誕生

株式会社アグリ総研・株式会社アグリセクト九州事業所落成式

■九州の中心地に生物農薬の研究・生産拠点が完成

6月4日（火）、本町西寒野に新設された株式会社アグリ総研・株式会社アグリセクト九州事業所（西寒野856番地）で落成式が開催されました。

茨城県稲敷市に本社を置く同社（西川嘉俊、手塚俊行両代表取締役）は、農作物の受粉に使う「マルハナバチ」の生産や、化学薬品を使わずに天敵の虫で害虫を駆除する「生物農薬」の開発、販売までを一貫して行う事業を展開しています。

今回、茨城県外で初の生産拠点として整備された同社の九州事業所は、マルハナバチ2種と生物農薬2種を先行して生産、販売します。

落成式で同社の西川代表取締役は「これから熊本、甲佐町を活気づけるべく、一丸となってしっかり事業にいそしんでいきたい」とあいさつ。甲斐高士町長は「農業は本町



▲西寒野地内に完成した九州事業所



▲アグリ総研・アグリセクトで扱う商品見本

の基幹産業であり、環境保全型の営農の取り組みを推進している。今後の事業展開に期待するとともに、町としても全面的にサポートしていきたい」と祝辞を述べました。